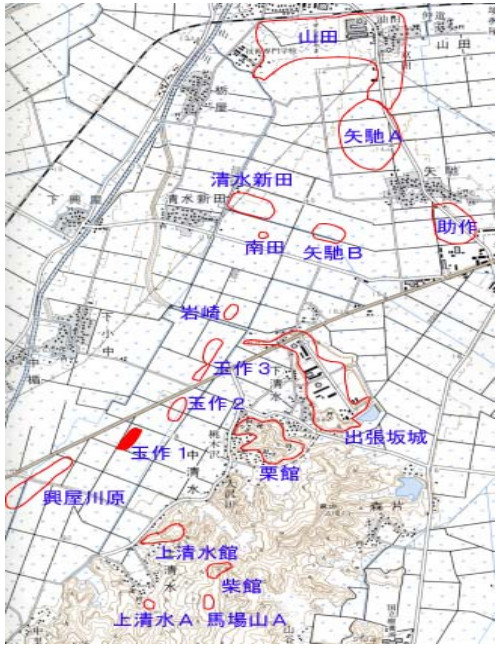
玉作1遺跡（第2次）現地説明会資料

2006年8月27日（日曜日）
財団法人山形県埋蔵文化財センター



第1図　玉作1遺跡と周辺遺跡

調査要項

遺跡名	玉作1(たまつくり1)遺跡
遺跡番号	平成16年度登録
所在地	鶴岡市大字中清水字玉作
調査委託者	国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道 （温海～鶴岡間）
調査面積	2,300平方m
現地調査	平成18年7月3日～8月31日
遺跡種別	集落跡
時代	弥生時代、古墳時代、平安時代
遺構	掘立柱建物跡、土坑、落ち込み
遺物	石鏃、管玉未成品、土師器、須恵器、中世の土器、古銭
調査担当者	調査第三課長　渋谷孝雄 調査研究主幹　佐藤正俊 専門調査研究員　黒坂雅人 調査員　深澤　篤
調査指導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所 鶴岡市教育委員会・庄内教育事務所

1　調査（遺跡）の概要

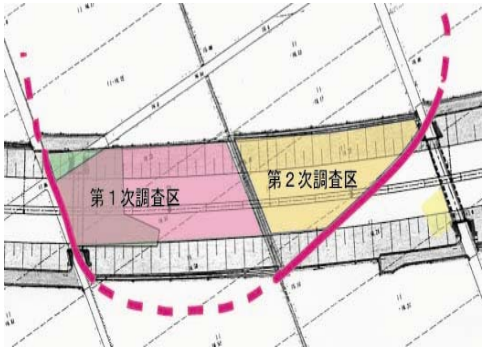
玉作1遺跡は、平成10年度の日本海沿岸自動車道計画路線とその周辺の踏査により、遺跡になる可能性のある地域ということで抽出されていました。その後、工事計画が進み、用地買収の終わった平成17年3月に山形県教育委員会が試掘調査を行いました。その結果、古墳時代の土師器片などが出土し、一部で土坑などの落ち込みも確認されました。このことにより、当地は「玉作1遺跡」として登録されるとともに、工事計画との調整が進められ、平成17年度の事業として調査計画に組み入れられることになりました。

計画路線内全体の遺跡面積はおよそ7,600㎡となりますが、このうち暫定二車線工事区域に入り、平成17年度に着工予定となっているプレロード施工部分を含む3,680㎡を対象として平成17年度に第1次発掘調査が行われました。平成18年度は、残りの2,300㎡について調査を実施することになりました。

発掘調査は7月3日から始められ、表土を重機で除去した後、手作業で掘り進めました。第2次調査区の全体は大きな低地帯であることがわかり、土師器片などの遺物が散発的に出土したものの、遺構は見つけることができませんでした。

第2図　調査区全景（西から）

第3図　調査区完掘（東から）



第2図　遺跡調査範囲

2　遺構と遺物

今回の調査で発見された遺構は、以前の圃場整備によって調査区の全体が壊され、残念ですが掘立柱建物や土坑等の遺構が検出されませんでした。

調査区は、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積し、流木や木片等が多数発見されているため、恐らくは低湿地帯と考えられます。

出土した遺物は、整理箱に1箱分となり、調査区の中央から南西側、圃場整備の工事の際、削り取られた攪乱した層から多数出土しています。

発見された土器は、第1次調査と同様に主に古墳時代前期と後期の土師器が、平安時代の須恵器や赤焼土器等が出土しています。

3　調査のまとめ

今回の調査区は、遺構や遺物が検出される層が南西側域の一帯で、圃場整備の工事で壊されたため、往時の人々が生活する領域（集落範囲）を確認することが出来ませんでした。

しかし、今回の調査で中央部から東側一帯にかけて、低湿地が大きく広がることが判り、往時の地理的な環境を知ることが出来て、一つの成果と言えます。

恐らく玉作1遺跡集落の中心地は、今回調査区の西側から東側にかけての一帯、高速道路建設工事区外、現在田圃となっている地区と考えられます。

第3図　面整理作業風景

第4図　作業風景

第5図　出土遺物

第6図　遺物出土状況

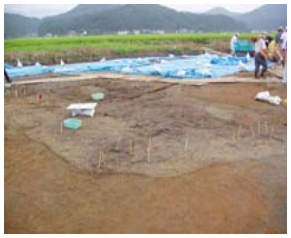
ＳＸ１、２全景（東から）

ＳＸ57土層断面（南から）

ＳＸ57全景（西から）

ＳＸ58全景（北東から）

ＳＸ59全景（北から）



ＳＸ53検出状況（北西から）

ＳＸ53完掘状況（北西から）

ＳＫ１２検出状況（南から）

ＳＫ12調査状況（南西から）

ＳＫ12土層断面（南西から）

ＳＫ13検出作業（南西から）

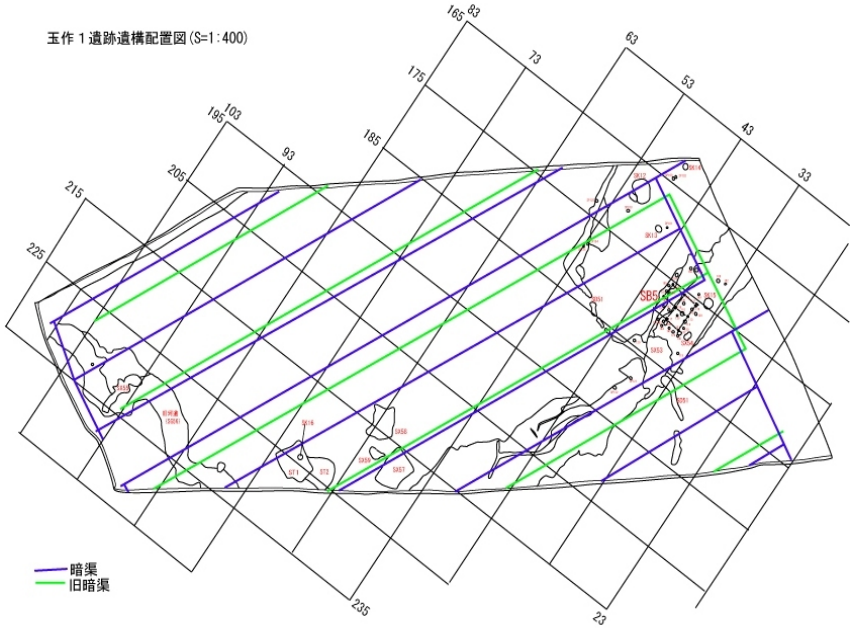
ＳＫ13土層断面（南西から）

ＳＫ14検出状況（南西から）

ＳＫ14土層断面（南西から）

ＳＫ14完掘状況（南西から）

玉作１遺跡第１次調査成果



第１次調査遺構配置図

弥生時代の石鏃（ＳＸ58出土）

管玉未成品(SX57出土)

古墳時代前期の土師器（ＳＸ59出土）

中世の古銭